

としょかん

112

2025.10.1

大阪経済大学図書館報



CONTENTS

特集

秋に読みたい本

- 第28回 ビブリオバトル
- 山本 俊一郎学長にインタビュー
- 私のおすすめ多読本 vol.8
- 編集後記

秋に読みたい本

秋は読書の季節。本を読むのが好きな人はもちろん、ふだんは本を読まない人にも、この季節にはぜひ読書の楽しさを知ってもらいたいものです。そこで、秋に読みたい本を集めてみました。みなさんの読書のきっかけになれば嬉しいです！



『書店ガール』 碧野圭 著

請求番号:X1665/913.6
資料ID:50066546

読書の秋ということで、本屋が舞台の本を紹介します。最初は仲が悪くギスギスしていた書店員たちが、書店のとある危機に立ち向かうことになるお話です。書店を良くしたいという気持ちには全員同じなのですが、意見がまとまらなかったりすれ違ったりしてスムーズに進まないところに人間関係の難しさをリアルに感じました。苦手だった相手の意外な一面や考え方を知り、互いに認め合い終盤になるにつれて全員で協力して乗り越えようとする部分が特にわくわくしました。ぜひ読んでみてください！

Pick up かれさん

『世界99(上)(下)』 村田沙耶香 著

請求番号:
913.6/Mur/1-2
資料ID:
50112281、
50112282

読書の秋ということで村田沙耶香さんの作品の中で最長の小説である、『世界99』上下巻をおすすめします。みなさんはコミュニティや接する人によって自分が全く違うキャラクターをもつ人間のように感じたことはありませんか。この本の主人公、空子は小さい頃から空子の中にいくつものキャラクターをもち、それぞれの人格を場所によって使い分けます。物語が進んでいくと、ある生物の進化とその真相が明らかになり、世界が動き出します。空子の人格たちは果たしてどうなっていくのか。少しでも気になった人はぜひ読んでみてください。

Sさん **Pick up**



『図書館のお夜食』 原田ひ香 著

請求番号: 913.6/Har

資料ID: 50107722

舞台は東京の郊外にある「夜の図書館」。
そこは普通の図書館とは異なり、亡くなった作家の蔵書が集められた、いわば本の博物館のような図書館です。また、実在の本に登場するメニューを再現したまかないがあるのもその図書館の特徴の一つ。職員たちがそのまかないを食べるシーンは、読んでいるだけでお腹が空いてきます。まさに「食欲の秋」にぴったりの作品です。まかないが登場するシーンはもちろん、ミステリー要素のあるストーリーも楽しめる一冊になっています。ぜひ読んでみてください!

T.Y.さん Pick up



楽園の 原田マハ



『楽園のキャンバス』 原田マハ 著

請求番号: 913.6/Har

資料ID: 50069290

私は、秋が好きです。そこら中からカサカサと落ち葉の音が聴こえ、乾いた風が頬をなでる季節。この原稿を書いている今はまだ8月末ですが、コンビニには焼き芋フレーバーの商品が並び始め、早くも秋の訪れを感じて嬉しくなります。そんな秋の夜長におすすめした一冊が、原田マハさんの『楽園のキャンバス』です。この物語は、ある絵に隠された真実を解き明かしていくアートミステリーであり、少しロマンスの要素もあります。絵画に秘められた思いに触れたとき、心がじんわりと熱くなる——そんな素敵な一冊です。静かな秋の夜、本と向き合う贅沢な時間を。

Pick up M.F.さん

『芥川龍之介全集, 第2巻』

請求番号: 918.6/A414/2

資料ID: 00143797

芥川龍之介 著

私がおすすめする本は芥川龍之介の『秋』という作品です。
芥川龍之介の短編『秋』は姉・信子を選んだ「犠牲の愛」と、妹・照子との重なり合う想いを、静謐な筆致で描き出す心理劇です。照子との重なり合う想いを、静謐な筆致で描き出す心理劇です。大阪へと嫁いだ信子は文学への夢を断ち切り、かつて想いを寄せた従兄・俊吉への記憶を胸に抱えながら、妹の幸福を優先します。しかし妹宅を訪れたある日、妹と結婚した俊吉と再び出会い、信子の中に封じ込めていた感情の扉をそっと開かせます。言葉少なに行間に漂う未練と切なさ、まるで秋の風のように心を撫でる一篇です。ぜひ読んでみてください!!

T.T.さん Pick up

芥川龍之介全集

2

読摩全集類聚



読摩書房



ビブリオバトル



6月20日(金) 3限目に、図書館1階ラーニング・commonsで第28回ビブリオバトル(全国大学ビブリオバトル2025関西 Dブロック地区予選)を開催しました。今回は、バトラー初挑戦の学生ばかりの5名によるバトルとなりました。

今回もバラエティに富んだ5冊が紹介され、観客の皆さんにも見ごたえあるビブリオバトルを楽しんで頂けたのではないかと思います!

ビブリオバトルとは?

- ① 発表者(バトラー)が他の人に勧めたい本を持って集まる
- ② 順番に一人5分間で本を紹介する
- ③ 2~3分間のディスカッションタイム
- ④ 最後に「どの本が一番読みたくなったか」を観客が投票で決める

発表本

『アルジャーノンに花束を』

ダニエル・キイス著/小尾美佐訳



第28回 ビブリオバトルチャンプ

経営学部
3年生 尾崎 心紀さん



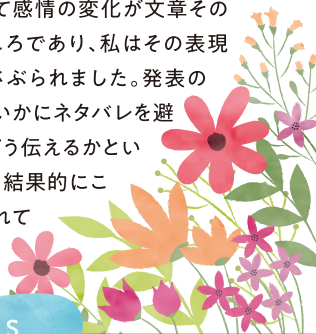
まずは、ビブリオバトルを見に来てくれたみなさん、そして運営をしていただいたみなさん、ありがとうございました。以前から興味のあったイベントではありましたが、今回勇気を出して参加させていただきました。私が紹介した『アルジャーノンに花束を』の魅力は、主人公の知能、そして感情の変化が文章そのものに反映されているところであり、私はその表現方法によって心を強く揺さぶられました。発表の中で特に難しかったのが、いかにネタバレを避けながらこの本の魅力をどう伝えるかという点で、非常に悩みました。結果的にこの本がチャンプ本に選ばれてくれてとても嬉しいです。

司会感想 かれ

今回のビブリオバトルも、とても盛り上がりました。バトラーのみなさんは言葉に詰まってしまうなど緊張が伝わってくる部分もありましたが、観戦者からの質問にスムーズに答えており、本の魅力が伝わってきました。普段読まないジャンルの本にも触れることができ、とても良い機会でした。ビブリオバトルは秋学期にも開催予定です。本が好き、人前に立って話す練習がしたいなど、少しでも興味がある方は一度参加してみてください。お待ちしております!

司会感想 S

今回はビブリオバトルの司会を担当させていただきました。バトラーのみなさんの熱意や本への想いを間近で感じることができ、とても魅力的な時間を過ごすことができました。様々なジャンルの本が紹介され、新たな発見や共感を得られる貴重な機会でした。まだビブリオバトルを見に来たことがない人も、少しでも興味があれば、ぜひ来てください。



山本 俊一郎学長に インタビュー



今回は、図書館学生サポーターの中から「大学生活で直接関わる機会がありません学長を、身近な存在に感じてもらいたい」という声があり、学長へのインタビューを企画しました。山本学長に、読書にまつわる子供時代のエピソードやおすすめの本について、図書館学生サポーターの松尾と平岩がお話をうかがってきました。

子供時代のエピソード

——本日はインタビューを受けていただきありがとうございます。
山本学長の子供時代はどんな子供でしたか？ また、当時好きだった本はありますか？

山本先生 実は子供の頃からそんなに本を読むのが好きじゃありませんでした。

——というのも「没入感があって物語に入りこむ」感覚が苦手で、高校生までは長編よりも短編で伏線が回収される作品を好んでいました。また、読み手である自分が客観視して俯瞰しながら読み進めるのが好きです。

——そうなんです。読書があまり好きでないとするのは意外でした。先生の好みの傾向を少し知ることができそうです。

山本先生 短編集というと、星新一は子供の頃から好きでした。また子供時代には、日記の課題が嫌で、代わりに小説を書いたりして、



それを先生がみんなに配布してくれました。

学長の性格と読書傾向

——音楽をされていたことや小説を書いたりしていたということを知って、山本先生は表現することが好きなのかなと感じました。

山本先生 現在論文を書くときも表現していると言えます。起承転結をわかりやすく伝える構成力や感覚を上手に形式知化していく表現力を、学生の皆さんにも学んでほしいですね。

——みなさんにおすすめしたい本はありますか？

山本先生 1冊選ぶとなると難しいですね。最近読んだもので面白かったのは伊坂幸太郎さんの「透明ボーラーベア」です。



タイトル:『パズルと天気』
著者名:伊坂幸太郎
請求番号:913.6/Isa
資料ID:50113226

これは最近出版された『パズルと天気』や『アイラブユー』に入っています。

——『パズルと天気』は現在図書館にも所蔵されていますね。理由をお伺いしてもいいですか？

山本先生 もともと伊坂幸太郎さんが好きで、特に「透明ボーラーベア」は舞台が仙台で親近感がありました。というのも仙台に住んだことがあり、感情移入ができたんです。

——伊坂幸太郎さんが好きな理由は何ですか？

山本先生 短編が多くて、パズルがハマっていくように伏線が回収される展開や、心温まるストーリーで、文体にリズム感があるところ。日常に不安を感じている人におすすめしたいです。伊坂幸太郎さんの作品は日常の中の見ええな幸せに気づかせてくれます。

まとめ

みなさんの中には本を読むのをあまり好まない人もいると思います。山本学長はご自身の経験をもとに、本嫌いの人はその人にとって素晴らしい本にまだ出会えていないだけではないかとおっしゃっていました。図書館には様々なジャンルの資料が豊富にそろっています。ぜひあなたのセレンディビティ(幸運な偶然の出会い)を見つけてみてください。山本学長、お忙しい中インタビューへのご協力、ありがとうございました！

インタビューを してみた感想

今回は山本学長にご協力いただきました。緊張しながらも多くの質問をさせていただき、有意義なインタビューを行うことができました。心より感謝申し上げます。

——伊坂幸太郎さんの魅力がとても伝わりました。ぜひいろんな人に読んでみてほしいですね。

多読本



今回はロシアの民話The Enormous Turnip (大きなかぶ)を紹介します。本作品は、日本語の絵本としても出版されており読んだことがある人もいるかもしれません。物語は、ある男の人が庭で育てた大きなかぶを引き抜こうとするところから始まります。しかし、かぶはあまりに大きく、ひとりの力では抜けません。そこで、周囲の人々や動物たち——犬、猫、そして最後にはネズミまで——の協力を得て、ようやく引き抜くことに成功します。ストーリーは非常にシンプルですが、繰り返し表現が特徴的で、リズム

ミカルな言葉の連なりが読者を引き込みます。音読しながら読むことで、そのリズムの面白さや言葉の響きをより深く味わうことができます。また、単語力に不安がある方は、読み始める前に巻末のGlossary(用語集)を確認しておくことをおすすめします。主要な語彙を事前に把握しておくことで、内容の理解がぐっと楽になります。果たして、最後に大きなかぶはどうなるのか——ぜひ、楽しみに読み進めてみてください。

経済学部教員 吉田弘子

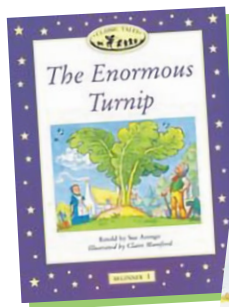
多読・多聴のヒント

多読に少し慣れてきたころにおすすめの本です。語数が少し多く感じるかもしれませんが、繰り返し表現が多いので語数の割には楽に読むことができます。4~5分程度で読み終えることができればOKです。

書名	The Enormous Turnip	YL0.6
請求番号	洋書 PB1049/837	総語数 450語
初心者向け CDなどの音声はありません。		

表紙

かぶの
大きさに注目
してください!



編集後記



今回の本の紹介のテーマが「秋に読みたい本」ということで、秋の中でも「食欲の秋」に焦点を当てて本を選んでみました。夏の暑さが和らいで過ごしやすい季節になったので、ぜひ図書館報を参考にして読書を楽しんでもらいたいです!

T.Y.

今回は2回目の表紙を担当させていただきました。楽しかったです!また学長へのインタビューもあり、普段あまり関わることのできない学長について知る良い機会だと思います。楽しんでいただけると嬉しいです。

かれ

今回はインタビュー記事を初めて担当しました。この記事をきっかけにいろいろな人に学長や読書の魅力が伝われば嬉しいです。ぜひ読んでみてください。

S

最近本をあまり読んでいなかったで、どれにしようかと迷いました。昔から本はそこまで読まない方でしたが、高校一年生の時に教科書から太宰治や芥川龍之介、川端康成、夏目漱石などの本に出会い、多少は読むようになり、書くことが出来ました。その時に感謝です。ここにあげた作家の本も面白いので読んでみてください。

T.T.

普段、本屋に立ち寄ることが多いのですが、買って読んでいない本がたくさんあったので、今回読む良いきっかけになりました。また、文章を作成する機会も得られて、とてもお得に感じました。今後もこの調子で頑張りたいです。

M.F.

